

武蔵野音楽大学

音楽総合学科 アートマネジメントコース

年間活動報告書 2023



*Annual Report of
the Department of Arts Management, Faculty of Music,
Musashino Academia Musicae
April 2023- March 2024*

目次

『年間活動報告書』2023 刊行に寄せて	1
1. 2023 年度 アートマネジメントコースの主な年間活動記録	2
2. 2023 年度 アートマネジメントコース専門科目一覧	2
3. 2023 年度 「アートマネジメント研究」各科目	3
■ 「アートマネジメント研究（基礎）Ⅰ・Ⅱ」	3
■ 「アートマネジメント研究（応用）Ⅰ・Ⅱ」	3
■ 「アートマネジメント研究（応用）Ⅲ・Ⅳ」	4
■ 「アートマネジメント研究（応用）Ⅴ・Ⅵ」	4
■ 2023 年度 卒業論文題目一覧	5
■ 2023 年度 卒業研究発表会	6
4. 2023 年度 実習活動	7
1) 「アートマネジメント実習 Ⅰ・Ⅱ」	7
2) 「アートマネジメント実習Ⅲ」	10
3) 芸術文化施設見学実習の中止	11
5. 各科目からの報告	12
「企画制作演習 Ⅰ・Ⅱ」	12
「舞台技術概論Ⅰ・Ⅱ」	15
「広報宣伝資料製作」	16
「劇場音響概論 Ⅰ・Ⅱ」	18
「芸術文化政策論Ⅰ・Ⅱ」	20
「コンピュータ音楽実習Ⅰ、Ⅱ」	20
「演劇論・演出論」	22
「舞踊概論Ⅰ・Ⅱ」	23
6. その他	24
1) FD活動	24
2) ご退任	25

凡例：

- ・本報告書は、音楽総合学科アートマネジメントコースの授業、実習、その他の活動を紹介するものである。
- ・本報告書で記載されている教員の役職名、学生の年次などは、すべて 2023 年度時点のものである。
- ・特定の執筆者名が記載されていないテキストは、本号編集担当者が作成したものである。

『年間活動報告書』2023 刊行に寄せて

アートマネジメントコース長 上村英郷

新型コロナウイルス感染症が世界を混乱させ、多くの人々の命を奪い、日常生活に大きな影響を与えました。これまでの苦難や不自由な日々を経て、ようやく春の訪れを感じることができる年度末です。パンデミックによる困難な時期は、確かに覚悟していたことではありましたが、芸術文化においてもその長期化や影響の大きさは多くの人々にとって予想外でした。学生たちにとって、青春時代の大切な時期が不自由な日常の中で過ごされたことは、確かに大きな焦燥感や諦観を抱かせるものでした。しかし、その間にも学生には多くの学びや成長があったことでしょう。この経験が彼らの人生観や価値観に深く影響させることも考えられます。

アートマネジメントコースとしては、実習型の授業や活動を積極的に取り入れてまいりましたが、この間に達成できなかったことは少なくありませんでした。とりわけ、全学年で行っていた「芸術文化施設見学実習」が実施できなかったことは、大きな教育的損失と受け止めています。この実習は、劇場・ホールや美術館・博物館などを訪問する1泊2日の見学旅行であり、学生たちにとって非常に印象深い体験でした。実地での見学は、学生たちの心に深い印象を残し、事前学習や事後のレポートと組み合わせ、授業外の学習体験を提供し、学生たちの理解を深める上で重要な役割を果たしていました。

そのため、来年度からは「芸術文化施設見学実習」の再開に向けて準備を進めています。この実習の経験を通じて得る深い学びを活かし、より良い未来に向けて前進していくことが大切だと考えています。

アートマネジメントコース授業に関する課題として、今年度は部会所属教員へのアンケート調査が実施されました。この調査の目的は、学生に学ぶ喜びと学修成果を提供できる望ましい授業のあり方を探求し、各教員の授業改善を図ることでした。具体的には、アートマネジメントコース部会所属の全教員を対象に、「アートマネジメントコース授業に関する課題」についての調査が行われました。調査結果は共有され、大学が実施した「学生による授業評価アンケート」の調査結果とともに、部会で意見交換が行われました。今年度は基本的に全科目が対面授業で実施されたため、対面における授業のあり方や課題について討議されました。

教員からの回答の集計結果を見ると、今年度から実施された対面授業に関しては、学生の理解度やプレゼンテーション能力が高まり、教員に質問をしやすい環境により双方向型の授業運営ができたという意見が多く寄せられました。今後も、学生が主体的な学びができるように努めていくことが重要と考えています。授業のポイントである「わかりやすさ」と「知的な好奇心を刺激する」が、各教員の工夫や細やかな指導によって授業に反映されていることが確認されました。

今後、留学生に対する授業内容については、日本語能力が求められる部分もあります。その対応については、よりきめ細やかな対応を心がけサポートしていく必要があります。指導に関しては、良いところを褒め、大事なポイントを伝えることや、学生の疑問に答える姿勢などが重要視されました。これらの意見を参考に、より効果的な指導方法を模索していきます。

この報告書は、私たちアートマネジメントコースの教員が、日々の教育・研究活動を振り返る手がかりとして、また、コースを支えてくださっている皆様に向けて、教育の現状を報告するために編集・発行しています。皆様には、引き続きアートマネジメントコースへのご指導・ご助言をお願いいたします。

1. 2023 年度 アートマネジメントコースの主な年間活動記録

2023 年	
4 月 1 日	入学式
4 月 6 日	前期授業開始日
7 月 21 日	前期授業終了日
8 月 7 日～9 月 20 日	夏季休暇
9 月 21 日	後期授業開始日
10 月 27 日～29 日	ミューズフェスフェスティバル
12 月 8 日	「企画制作演習」公演（ブラームスホール）
12 月 23 日～1 月 8 日	冬季休暇
2024 年	
1 月 6 日	クラス授業・レッスン再開
1 月 18 日	卒業論文提出日
1 月 22 日	後期授業終了日
2 月 7 日	卒業研究発表会
3 月 23 日	令和 5 年度卒業式
3 月 24 日	3 コース合同卒業研究発表会（ブラームスホール）

2. 2023 年度 アートマネジメントコース専門科目一覧

科目	履修年次	担当教員
アートマネジメント研究（基礎）Ⅰ・Ⅱ	1 年	上村 英郷、赤木 舞、久保 仁志
アートマネジメント研究（応用）Ⅰ・Ⅱ	2 年	上村 英郷、赤木 舞、
アートマネジメント研究（応用）Ⅲ・Ⅳ	3 年	上村 英郷、赤木 舞、
アートマネジメント研究（応用）Ⅴ・Ⅵ	4 年	上村 英郷、赤木 舞、中川 俊宏、久保 仁志
アートマネジメント実習Ⅰ・Ⅱ	2 年	赤木 舞
アートマネジメント実習Ⅲ	3・4 年	赤木 舞
企画制作演習Ⅰ・Ⅱ	4 年	中川 俊宏、赤木 舞
舞台技術概論Ⅰ・Ⅱ	2 年	西田 俊郎
広報宣伝資料製作	2 年	松永 路
劇場音響概論Ⅰ・Ⅱ	3 年	渡邊 邦男
芸術文化政策論Ⅰ・Ⅱ	3 年	赤木 舞
コンピュータ音楽実習Ⅰ・Ⅱ	3 年	安田 寿之
演劇論・演出論	4 年	酒井 美恵
舞踊概論Ⅰ・Ⅱ	4 年	阿部 さとみ、稲田 奈緒美

3. 2023 年度「アートマネジメント研究」各科目

■「アートマネジメント研究（基礎）Ⅰ・Ⅱ」

授業概要：

今年度（令和 5 年度）は、1 年間を通して対面での授業を行い、前期・後期ともに各 15 回の授業を実施した。授業は〈芸術文化環境概論〉を副題とし、芸術や文化の概念、音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、大衆芸能などの舞台芸術分野や美術分野の状況、関連施設や団体の状況など、現代の芸術文化を取り巻く環境について講義を行った。学生はⅠ・Ⅱを通して、日本の芸術文化全般の現状を理解し、芸術文化を取り巻く環境に対する理解を深め、アートマネジメントの基盤を築くことを目指します。

担当教員：

今年度は、赤木舞と久保仁志、上村英郷の 3 名が担当した。主に赤木が各舞台芸術分野、久保が芸術全般と美術関係、上村が音楽分野を担当した。

授業形式：

アクティブ・ラーニングの一環として、毎回の授業の冒頭に公演見学レポートの発表を行った。クラシック音楽コンサートや未経験のジャンルの公演など、多様なレポート課題が設定されます。

評価方法：

前期・後期ともに Google フォームを用いたオンライン試験を行った。持ち込み可で時間内に解答する方式を採用し、語句の説明を求める問題などを出題した。試験結果は各教員が採点し、授業への取り組み姿勢なども考慮して最終的な評価が行われた。

学生が芸術文化に関する理解を深め、アートマネジメントの基盤を確立するための授業を提供します。
(上村)

■「アートマネジメント研究（応用）Ⅰ・Ⅱ」

授業概要：

今年度（令和 5 年度）は、1 年間を通して対面で前期と後期それぞれに 15 回の授業を行った。授業内容は、「舞台芸術運営論」を副題とし、音楽をはじめとする舞台芸術公演の企画、予算管理、交渉、権利処理、契約、発注、宣伝、営業、事後処理などの制作業務全般に焦点を当てている。演奏会を中心に、企画立案から公演終了までの業務の流れを学び、音楽以外の舞台芸術全般についても、制作サイドからの視点で理解を深めます。

担当教員：

赤木舞と上村英郷の 2 名が担当した。主に赤木が各芸術各分野、上村が音楽分野を担当した。

授業形式：

アクティブ・ラーニングの一環として、毎回の授業の冒頭に公演見学レポートのプレゼンテーションを行った。また、学期末には企画書の作成とプレゼンテーションを行い、質疑応答や意見交換を行った。

評価方法：

学期末に発表した企画書のコンセプト、具体的な内容の整合性や充実度、授業への取り組み姿勢などが評価の対象となり、教員間で協議の上で採点した。各学生には教員からフィードバックが行われた。

学生が舞台芸術運営に関する実践的なスキルを身につけ、芸術とビジネスの両面で活躍できる準備ができるよう、精力的にサポートしていきます。
(上村)

■「アートマネジメント研究（応用）Ⅲ・Ⅳ」

授業概要：

今年度は（令和5年度）は1年間を通して対面での授業を行い、前期・後期ともに各15回の授業を実施した。授業は〈地域文化振興論・マーケティング論〉を副題とし、文化政策、文化施設、文化遺産、教育、民間支援、普及などの視点から芸術文化と地域活性化の問題に焦点を当てます。また、マーケティング理論も取り上げ、芸術文化と市場の関係性について学びます。前期・後期を通して、芸術文化と地域社会の関係を探究し、芸術文化の経済的側面にも触れることを目指します。

担当教員：

赤木舞と上村英郷の2名が担当した。主に赤木が芸術各分野、上村がマーケティング関連を担当した。

授業形式：

アクティブ・ラーニングの一環として、毎回の授業の冒頭に新聞記事やインターネット上で報じられた芸術文化関連ニュースのレポートを学生が発表した。学生たちが注目したニュースが共有され、質疑応答や意見交換が行われた。

課題と評価方法：

Ⅲ（前期）・Ⅳ（後期）では、各学生が1つの施設や団体を対象に研究を行った。前期末に概要調査レポートを提出し、後期には研究を深めて研究成果をまとめ、プレゼンテーションとレポート提出を行った。成績は研究内容の充実度や授業への取り組み姿勢を考慮して評価された。後期に提出された研究レポートには教員からのフィードバックとともに、卒業研究に向けたアドバイスも提供された。

学生が地域と芸術文化の関係について探究し、実践的な研究を通じて学びを深めることができる授業を提供します。

（上村）

■「アートマネジメント研究（応用）Ⅴ・Ⅵ」

「卒業論文」

授業概要：

「アートマネジメント研究（応用）Ⅴ・Ⅵ」は、芸術文化活動全般からテーマを選び、担当教員の個別指導のもとで研究計画を策定し、調査・分析を行う卒業研究である。一方、「卒業論文」は、その卒業研究の成果を論文としてまとめるものであり、芸術文化の社会における位置づけについて深く考察していく能力を身につけることを目指している。

授業形態：

授業形態は、クラス全体での講義と、担当教員ごとの個別指導とに分かれる。クラス全体での講義では、年度初めに論文執筆の基礎的な知識を提供し、発表や意見交換を行った。後半では個別指導に移行し、学生はそれぞれの研究計画を進めた。

担当教員：

中川俊宏、赤木舞、久保仁志、上村英郷と合わせて4名が指導に当たった。各教員が学生の研究テーマを参考に指導し、学生数が多いため教員ごとに分散しての個別指導が行われた。

卒業論文提出日：

「卒業論文」の提出日は、今年度は1月18日（木）に設定され、15名全員が遅滞なく提出した。

評価方法:

「アートマネジメント研究（応用）V・VI」の成績は、前期・後期ともに担当教員が主に評価し、「卒業論文」については、4名の教員が採点と協議を行い評価した。

学生が研究計画を策定し、調査・分析を行い、独自の研究テーマを通じて深い学びを得るための支援を行います。

(上村)

■2023年度 卒業論文題目一覧

論文題目	執筆者
ろう者の舞台芸術鑑賞におけるバリアフリーのあり方	1927-001 近藤 奏
ミュージカル・ライブ配信の現状と今後	2027-001 井津 陽葵
演劇を活用した小学生の国語力向上に関する考察	2027-002 遠藤 葵子
日本の水族館教育の現状分析	2027-003 木村 元輝
BGMと消費者の購買意欲の関係について —アパレルショップを例として—	2027-005 小島 仁加
横浜市内のコンサートホールにおける予約販売システムの研究	2027-006 杉本 悠郁希
覆面アーティストの正体 —歴史と現代への影響—	2027-007 関 柊美季
アニメ・マンガミュージアムの現状と今後のあり方について	2027-009 吉岡 優里
アートマネジメント専門人材の育成について —トヨタ自動車が行う社会貢献活動ネット TAM を事例に—	2027-010 浅川 奏海
日本におけるハワイ音楽イベントの需要について	2027-011 栗原 崇
過疎地域の公共ホールの活性化について	2027-012 山下 愛未
ジャズ喫茶の運営と今後の考察 —ジャズ喫茶におけるジャズ文化振興の展望—	2027-013 五十嵐 妃菜
K-POPのプロモーション戦略 —中小音楽事務所の事例を中心に—	2027-014 小巻 日向子
TikTokで流行する楽曲の共通点発売後期間を空けてから人気になる理由	2027-015 山根 遊仁人
VOCALOID業界の変遷と今後の予想	2027-016 岡坂 玲奈

■2023年度 卒業研究発表会

以下のように卒業研究の発表を行った。

《コース内卒業研究発表会》

日 時：2月7日（土）13：00～14：00

場 所：S414 室

発表者：木村 元輝・五十嵐 妃菜



《3 コース合同卒業研究発表会》

日 時：3月24日（日）

場 所：ブラームスホール

発表者：栗原 崇

備 考：オープンキャンパスにおけるコース紹介の一環として、
作曲コース、音楽学コース、音楽教育コースとともに合同で研究発表を行った。



4. 2023 年度 実習活動

舞台芸術のマネジメント人材の育成は、現場での実践から学ぶ要素が非常に多いという特性を持っている。確かに、講義によって得られる知識や情報は重要だが、教室外での経験もまた貴重なものである。これら両者はお互いに補完し合い、学びの効果を高めるものとなる。以下は、学生たちが実際に体験しながらアートマネジメントを学んださまざまな実習の報告である。

なお、「舞台技術概論Ⅰ・Ⅱ」「劇場音響概論Ⅰ・Ⅱ」「広報宣伝資料製作」「演劇論・演出論」などの科目にも実習的な活動が含まれていますが、それらの科目に関する報告は「各科目からの報告」欄にまとめて掲載している。

(上村)

1) 「アートマネジメント実習Ⅰ・Ⅱ」

◆授業概要

大学主催の公演を中心に、スタッフとして参加し、コンサートホールにおける公演運営について実践的に学ぶ科目である。公演は、オーケストラ等による大規模公演から小規模の学生演奏会（「学生による演奏会」等）まで多種多様で、学内のホールのみならず、東京芸術劇場や東京オペラシティ等でも実習を体験している。

大規模公演における実習内容は、受付業務、チケットもぎり、teket の読み込み、花束受付、会場案内等であった。「学生による演奏会」では、舞台転換、司会、受付業務等の当日運営に加え、今年度からチラシとポスター作成も担当した。学生が主体的に運営することにより、学生同士でアイデアを出し合って効率のよい運営を目指すことや、チームワークの重要性を体感した。また、5月には、大場ゆかり講師に「スタッフ・プレーヤー間コミュニケーション」「プレーヤーのメンタルトレーニング」をテーマにご講義いただいた。

2023 年度に実施した実習は以下のとおりである。

(赤木)

開催日	会場	内 容
4月28日(金)	オーケストラホール	学生による演奏会 vol.33
5月25日(木)	ブラームスホール	ボストン・プラス ミニ・クリニックコンサート
5月26日(金)	ウィンドアンサンブルホール	学生による演奏会 vol.34
6月15日(木)	ブラームスホール	ニュー・ストリーム・コンサート 48
6月16日(金)	ブラームスホール	ニュー・ストリーム・コンサート 49
6月27日(火)	ウィンドアンサンブルホール	学生による演奏会 vol.35
7月5日(水)	ウィンドアンサンブルホール	学生による演奏会 vol.36
7月12日(水)	東京オペラシティホール	ウィンドアンサンブル演奏会 (指揮: クレーマー)
9月19日(火)	東京芸術劇場	管弦楽団演奏会 (指揮: 北原幸男)
10月11日(水)	ウィンドアンサンブルホール	学生による演奏会 vol.37
10月12日(木)	ブラームスホール	ニュー・ストリーム・コンサート 50
10月20日(金)	小竹小学校	小竹の森音楽祭 (リハーサル)
10月21日(土)	小竹小学校	小竹の森音楽祭 (リハーサル・本番)
11月10日(金)	オーケストラホール	学生による演奏会 vol.38
11月16日(木)	トッパンホール	ニュー・ストリーム・コンサート 51
11月24日(金)	東京オペラシティホール	管弦楽団演奏会 (指揮: 飯盛範親)
11月27日(月)	ベートーヴェンホール	イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル
12月8日(金)	ブラームスホール	アートマネジメントコース企画制作公演
12月12日(火)	東京芸術劇場	ウィンドアンサンブル演奏会 (指揮: クレーマー)
12月19日(火)	ウィンドアンサンブルホール	学生による演奏会 vol.39

武蔵野音楽大学
学生による演奏会
Vol.37

2023年10月11日(水) 6:00p.m. 開演
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルホール 入場無料(学生証提示)
学内開演(本学教員・学生・生徒)のみ入場可

二台ピアノ
モーツァルト
2台のピアノのためのソナタ ニ短調 K.488 第1楽章
1st 北原幸男 (1999), 2nd 山崎隆夫 (1999)

ピアノ独奏
ラフマニノフ
ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.36 (1913年版) 第1楽章
編 曲者 (1919)

二重奏
マーゼス
演奏会用ソナタ Op.17
Fl. 田中裕吾 (1991), Fl. 中村仁美 (1999)

三重奏
ロシキエツキ
イム・コンヴェーニョ
1st Cl. 加藤実倫 (1999), 2nd Cl. 宮野聖輔 (1999), Fl. 石川千夏 (1999)

三重奏
ドブラー
アンダンテとロンド Op.25
Fl. 栗田未来 (1999), Cl. 佐藤洋成 (1999), Fl. 野田智美 (1999)

木管五重奏
ホルン
4つの舞臺 第1、2、4楽章
Fl. 山口俊平 (1999), Cl. 中村仁美 (1999), 篠田聖夏 (1999)

クラリネット四重奏
クォーターズ
ダランド・ホルネット 第2、4楽章
1st Fl. 山崎隆夫 (1999), 2nd Fl. 栗田未来 (1999)
1st Clarinet 山崎隆夫 (1999), 2nd Clarinet 佐藤洋成 (1999)
3rd 山下隆雄 (1999), Bass 佐藤聖輔 (1999)

金管四重奏
フォーズ
ゴズメッタ・グロウゼリス
1st Euph. 杉田隆夫 (1999), 2nd Euph. 宮本聖夢 (1999)
1st Tbn. 金子拓夫 (1999), 2nd Tbn. 松谷航太郎 (1999)

木管五重奏
ピンドミット
小室内音曲 Op.24-2 第1、2、4、5楽章
1st Fl. 山口俊平 (1999), 2nd Fl. 栗田未来 (1999), 1st Vln. 荒木七海 (1999)
2nd Vln. 樋口晃吉 (1999), Vla. 吉田陽平 (1999), Ch. 高橋まゆみ (1999)

六重奏
ヴィヴァルディ
2本のトランペットのための協奏曲 ハ短調 RV537
1st Trp. 山崎隆夫 (1999), 2nd Trp. 野本 寛 (1999), 1st Vln. 荒木七海 (1999)
2nd Vln. 樋口晃吉 (1999), Vla. 吉田陽平 (1999), Ch. 高橋まゆみ (1999)

主催: 武蔵野音楽大学
ポスター作成: アートマネジメントコース 2年

武蔵野音楽大学
学生による演奏会
Vol.39

三重奏
ブーランク
オーボエ、ファゴットとピアノのための三重奏曲 第1、3楽章
Ob. 竹内真樹 (1999), Fg. 大内巧真 (1999), Fl. 吉田千穂花 (1999)

五重奏
ナイガス
ボラリス
1st Fl. 藤田和哉 (1999), 2nd Fl. 池田新次 (1999), 2nd Hrn. 飯坂文香 (1999)
4th Hrn. 小林希美 (1999), Fl. 藤野まゆり (1999)

サクソフォーン四重奏
ゼレネ
民間風ロンドの主題による序奏と変奏
Sop. 田中裕吾 (1999), Ab. 野井洋行 (1999), Ten. 深澤美穂 (1999), Bar. 梶原聖也 (1999)

サクソフォーン四重奏
パスカル
サクソフォーン四重奏曲 第1、4楽章
Sop. 山崎実花 (1999), Ab. 野本聖夢 (1999), Ten. 高橋結衣 (1999), Bar. 梶原 聖也 (1999)

木管五重奏
イペール
3つの小品
Fl. 佐藤 雅 (1999), Ch. 船本雄平 (1999), Cl. 小野英樹 (1999)
Hrn. 内田信広 (1999), Fg. 大久保真 (1999)

金管五重奏
ネーザル
ジャイヴ・フォー・ファイブ
1st Trp. 田中裕吾 (1999), 2nd Trp. 田中裕吾 (1999), Hrn. 掛ひかり (1999)
Tbn. 佐藤小石辰 (1999), Tbn. 大石純子 (1999)

五重奏
見シユトラス
art. F. Haendel
交響詩《イメル・オインシュペーデルの像をなした子》Op.28
Cl. 北原知雄 (1999), Hrn. 中野裕吾 (1999), Fg. 阿部和輝 (1999)
Vln. 荒木七海 (1999), Ch. 高橋まゆり (1999)

木管五重奏
ミラー
ルネ王の賦歌 Op.205 第1、2、3、4、5、6楽章
Fl. 藤田和哉 (1999), Ch. 武久自洋子 (1999), Cl. 宮野聖輔 (1999)
Hrn. 杉田隆夫 (1999), Fg. 藤野 真 (1999)

金管八重奏
経路拡張
続れた日は恋人と市場へ!
1st Trp. 田田田秋 (1999), 2nd Trp. 辻 天心 (1999), 3rd Trp. 在野光孝 (1999)
Hrn. 平山陽平 (1999), 1st Tbn. 上野智子 (1999), 2nd Tbn. 神谷大野 (1999)
Euph. 石塚聖平 (1999), Tbn. 青藤英人 (1999)

金管十一重奏
ボロディン
art. G. Mouton
《イゴロダ》より《ボロヴェツ人の踊り》
Fl. 山口俊平 (1999), 1st Trp. 山崎隆夫 (1999), 2nd Trp. 田中裕吾 (1999)
3rd Trp. 深澤美穂 (1999), 1st Hrn. 藤田和哉 (1999), 2nd Hrn. 荒井真真 (1999)
1st Tbn. 中村修三 (1999), 2nd Tbn. 小野英樹 (1999), B. Tbn. 池田大輝 (1999)
Euph. 鈴木聖輝 (1999), Tbn. 金子拓夫 (1999)

2023年12月19日(金) 6:00 p.m. 開演
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルホール
主催: 武蔵野音楽大学
ポスター作成: アートマネジメントコース 2年

「学生による演奏会」のチラシ

《ミューズ・フェスティバル》

ミューズ・フェスティバルは本学の学園祭であり、授業ではないが、本コースでは音楽環境運営学科の創設時以来、学科・コースの紹介などの企画をもって参加してきた。近年は、2年生の「アートマネジメント実習Ⅰ・Ⅱ」の一環として取り組んでおり、今年度（令和5年度）も同様に2年生が担当した。

新型コロナウイルスの影響により、過去2年間のミューズ・フェスティバルはオンラインでの開催となっていたが、今年度は昨年へ対面での開催となった。

今回展示のポスターとパンフレットを作成し、アートマネジメントコースの紹介と共に、「広報宣伝資料製作」の授業内に履修学生が作成した作品（架空の公演のチラシ）を展示し、過去の履修者の作品も含めて紹介する展示を企画した。

展示会場では4年生の「企画制作演習」公演の宣伝コーナーも設け、企画制作公演の紹介及び、今年度の企画制作公演の宣伝を行った。過去3年分の公演のチラシとプログラムを展示し、今年度の公演のチラシ配布とポスター展示を行い、昨年度の公演映像をスクリーンに映して実際の公演模様を見られるようにした。

「アイデアの木」という独自の企画を立案し、みんなの理想とする演奏会が書かれた葉を、模造紙に描いた木に貼ってもらう企画も行った。開催終了後には総括し「ミューズフェスティバル報告書2023」としてまとめられた。

ミューズ・フェスティバルは学生の祭典であり、企画立案や催事運営については学生たちの自発性や自主性を重視している。基本的には学年代表を中心に学生同士での相談で進め、担当教員は側面的にサポートする役割を果たした。

(上村)



《ミューズフェスティバル》
アートマネジメントコースポスター



《ミューズフェスティバル》
アートマネジメントコース紹介パンフレット





ミュージックフェスティバル会場の模様

2) 「アートマネジメント実習Ⅲ」

◆授業概要

3年次ないしは4年次で履修する必修科目で、学外の文化施設、芸術団体、文化関連団体等におけるインターンシップである。学生自らが実習先を探し、実習受け入れのお願いをすることになっている。実習内容は本人の希望に基づき、先方とご相談させていただいている。実習中は毎日「実習日誌」に業務内容や指導を受けた事項を記入し、実習終了後は実習先のご担当者にご所見と成績評価をいただいている。

今年度は、一覧のとおり11名（3年生7名、4年生4名）の学生がインターンシップを行うことができた。きめ細やかにご指導いただいた各施設・団体の皆様には心より感謝申し上げます。しだいである。

(赤木)

〈実習先及び主な実習内容一覧〉

実習生氏名	実習期間	日数	実習先(機関・施設)	主な実習内容
岡坂玲奈	5月11日～8月24日	10日	(株)PCI MUSIC	特典券作成、発送業務等
増田舞奈	5月19日～8月26日	10日	所沢市民文化センター ミューズ	ホール業務全般
小菅友理子	6月10日～6月22日	10日	(株)ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	ミュージカル公演制作・運営
四分一真世	8月7日～9月20日	10日	高崎芸術劇場	ホール業務全般
佐久間優響	8月7日～8月21日	10日	(一社)全日本ピアノ指導者協会	コンペティションの準備・運営
西村唯菜	8月18日～11月26日	10日	ミュージザ川崎シンフォニーホール	ホール業務全般
土屋舞波	8月11日～8月26日	10日	(株)東芸エンタテインメント	イベント運営
岡村瑠那	8月8日～11月15日	10日	横浜みなとみらいホール	ホール業務全般
山根遊仁人	10月24日～12月10日	10日	すみだトリフォニーホール	ホール業務全般、アウトリーチ事業
鈴木理人	11月17日～12月7日	9日	(株)タマプロ	演劇公演制作・運営
菊池凜果	11月20日～12月6日	10日	新国立劇場	バレエ、ミュージカル等の音響

3) 芸術文化施設見学実習の中止

芸術文化施設見学実習は、各学年の「アートマネジメント研究」の授業内容の中でも重要な活動ですが、今年度（令和5年度）も新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な中、残念ながら連続で中止せざるを得ませんでした。

今年度は再開に向けて準備しています。劇場・音楽ホール・美術館・博物館などを訪問し、バックステージなどを見学し、スタッフの方々のお話を聴く体験は、アートマネジメントを学ぶ学生たちにとって最良の生きた教材です。事前の調査研究、プレゼンテーションと質疑応答、事後のレポート提出などを含め、その教育的効果は非常に大きいものがあります。本学が推進するアクティブ・ラーニングの好例とも言える活動です。

(上村)

5.各科目からの報告

「企画制作演習 I・II」

アートマネジメントコース4年生の必修科目である。

IおよびIIを通して、学生たちが力を合わせて演奏会を企画制作し、学内のホールにおいて実際に演奏会を開催する実践的な授業である。「アートマネジメント研究(応用) I・II」において学んだ企画制作の知識をもとに、「アートマネジメント実習 I~III」における現場体験を生かし、1つの演奏会を創り上げることによって、音楽公演制作者として必要とされる実務的な技能を修得することを目標としている。

今年度、I(前期)では、演奏会企画の立案と、実現に向けての準備作業を進めた。企画性の高い公演を目指し、履修学生全員から提案されたアイデアをもとに検討を進め、相互の意見交換によって企画案を絞り込み、練り上げて最終的に1つの企画にまとめた。さらに具体的な公演プランを作成し、出演者、編曲者等に協力を依頼し、宣伝材料の準備までを行った。

またII(後期)では、Iにおいて練り上げた公演計画に沿って、学内ホールにおける演奏会実現に向けて、リハーサル等の諸々の制作業務を進める一方、チラシや公演プログラムの編集・入稿、宣伝活動などを並行して行い、公演当日を迎えた。また公演終了後には、アンケートを集計するとともに、出演契約書や収支計算書などを模擬的に作成し、一連の企画制作業務について振り返りを行った。

前期15回、後期15回の授業時間に、教室において全員での授業や作業等を行ったが、授業時間外にも、各担当学生が、アートマネジメント研究室、ブラムスホールなどにおいて必要な作業を進め、12月8日(金)つつがなく演奏会を開催した。

授業内容の詳細は『令和5年度企画制作演習 I・II 報告書』に記録を残しているが、本科目の授業成果発表として実施した演奏会の概略は以下のとおりである。



公演チラシ(表・裏)

【公演名】 宮沢賢治没後 90 年 宮沢賢治×クラシック 文学と音楽の星空へ

【日時】 2023 年 12 月 8 日（金）18:30～20:15（18:00 開場）

【会場】 武蔵野音楽大学 ブラームスホール（423 席）

【入場料】 無料（全席指定）*チケットは **teket** のシステムを活用した事前予約制

【企画趣旨】

本年で没後 90 年となる宮沢賢治に焦点を当て、彼の残した詩作や童話の朗読に合わせて、彼の愛したクラシック音楽を演奏する。音楽と文学のコラボレーションを通して、双方の芸術的価値の相乗効果を目指す。

宮沢賢治は、自らチェロを演奏し、作詞・作曲も試みているなど、音楽を深く愛していた文学者であった。その文学はクラシック音楽の影響を強く受けており、その作品の中にも数々のクラシック曲を登場させているほか、数多くのレコードを愛蔵していたことも知られている。宮沢賢治の人となり、音楽を通して紹介する第一部、そして、今回の演奏会のために委嘱する新曲によって童話の世界をドラマティックに表現する第二部を通して、宮沢賢治と音楽の関わりをより多くの人々に知っていただき、音楽と文学の出会いが織りなす世界を楽しんでいただく機会とする。

【プログラム】

第一部 音楽を愛した詩人

1. 『双子の星』×『星めぐりの歌』（作詞・作曲：宮沢賢治）

編曲：伊藤樹 朗読：生越一希 メゾ・ソプラノ：久我真由 ピアノ：佐藤千花

2. 『種山ヶ原』（作曲：ドヴォルジャーク 作詞：宮沢賢治）

編曲：伊藤樹 メゾ・ソプラノ：久我真由 ピアノ：佐藤千花

3. 『春と修羅』より『小岩井農場パート 3』×『田園』第 3 楽章（作曲：ベートーヴェン 編曲：リスト）

朗読：河口裕道 ピアノ：佐藤千花

4. 『演奏会用組曲セロ弾きのゴーシュ』より『何とかラブソディ』（作曲：桑原ゆう）

チェロ：鬼束壮一郎

5. 『春と修羅』より『松の針』×ピアノソナタ第 12 番『葬送』第 3 楽章（作曲：ベートーヴェン）

朗読：松田和輝 ピアノ：島崎蒼士

6. 『雨ニモ負ケズ』×『子供の情景』より『トロイメライ』（作曲：シューマン）

朗読：生越一希 チェロ：谷藤雅規 ピアノ：島崎蒼士

第 2 部 朗読と音楽による創作初演

7. 音楽朗読劇『よだかの星』

作曲：森崎雅也、安立夏美、莫少峰 朗読：生越一希、河口裕道、松田和輝

ヴァイオリン：高橋功夫、丸山真一郎 ヴィオラ：中峯優太 チェロ：鬼束壮一郎

ピアノ：（増田珠里休演につき代演）金子淳先生

【出演者】

メゾ・ソプラノ：久我真由

ピアノ：佐藤千花／島崎蒼士／金子淳先生（本学講師）

チェロ：鬼束壮一郎／谷藤雅規

ヴァイオリン：高橋功夫／丸山真一郎

ヴィオラ：中峯優太

朗読：生越一希／河口裕道／松田和輝 司会：山根遊仁人

【作曲・編曲】

安立夏美／伊藤樹／莫少峰／森崎雅也（本学作曲コース学生）

【楽曲解説原稿執筆】

清水彩那／高岡愛実／西岡美優（本学音楽学コース学生）

【協力】

佐藤誠一先生（本学准教授）

【アートマネジメントコース スタッフ】 ☆は各セクションリーダー

リーダー：木村元輝

サブリーダー：遠藤葵子／山下愛未

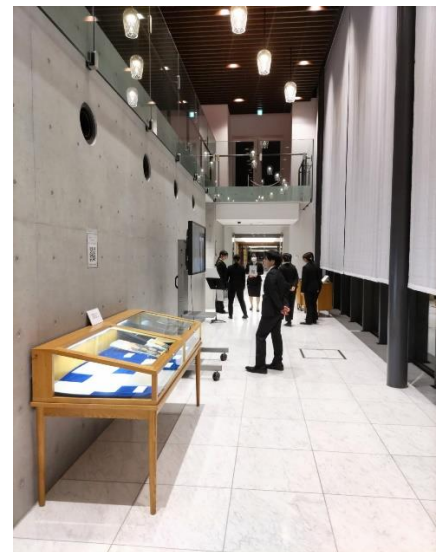
制作：☆浅川奏海／山下愛未／吉岡優里／木村元輝／五十嵐妃菜

営業：☆関柊美季／山根遊仁人／杉本悠郁希

広報：☆小島仁加／遠藤葵子／近藤奏

演出：☆栗原崇／小巻日向子／岡坂玲奈／井津陽葵

（中川）



「企画制作演習」公演の様様

「舞台技術概論 I・II」

担当教員：西田 俊郎

今年度は、4年生 1名 2年生 8名での授業であった。4年生は前期、休みが目立ち、積極性に欠け少々不安であったが、後期出した課題にたしては、積極的に取り込む姿勢が見え、相対的には、良かったと感じた。

昨年度、1名自主退学をした学生がいたために、本年度はより学生とのコミュニケーションを取ることに気をつけて、授業に挑み、退学する学生が、なかった事が幸いである。2年生においては、前期の方が、課題に対して真摯に取り組んでいたと感じられた。

後期は、コンピュータ照明卓などの、機材の説明で、難しいため、興味を持たない学生と興味を持つ学生に分かれてしまい来年度いかに後期授業を、学生が飽きないようにすることが、私の課題ではある。良かった事は、興味を持った学生が、実際に照明卓を触り理解してプロミグまで出来る生徒が数名育成出来たのは、2年後、4年生の時に卒業公演を企画制作する際、必ず役に立つ事だと確信している。

■ ブラームスホールに於ける照明実習

実習日程	1回目 2023年11月4日(土)	2回目 2023年11月11日(土)
	3回目 2023年12月2日(土)	4回目 2024年1月13日(土)

後期の授業の一環である学生が演奏会を企画して楽器演奏などを演じ、その演目に相応しいと思われる照明計画を策定し、その実施に向かってどの様に照明が作られて行くかを学ぶ授業である。

今年度は、人数が少ない為、グループ分けはせずに行なった。ブラームスホールでの実習では実際のホールを使用した授業である。劇場の機構や照明設備を実際に見て、触れて学ぶことでより理解を深める。更に照明の機材が持つ特性や光の方向に於ける見え方と意味、色彩光と衣裳の持つ色彩の関係性を学びながら具体的な照明器具を選び、照明計画を決める作業を進めた。座学で学んだことを実際のホールで学べたことによって、知識がより明確になった学生と出来なかった学生と二極化してしまった。専門的な方向に向かった為であり、来年度の課題である。

試験当日は、照明計画を元に、実際に光を当て、その演目に合わせて照明を作成し修正を加え、照明の実習、演目の本番を行った。観劇者側の目線にたち、照明によって演者がどう見えているか感じる大切さは、理解していた。また照明デザイン、照明操作、舞台に興味を持つ学生が出来、作品を作る楽しさを学び感じたと思われる。

(西田)



「広報宣伝資料製作」

担当教員：松永 路

本年度は7名の学生とで授業をすすめた。
はじめに「広報宣伝資料製作」で何を学び、何を製作するのかを明確に伝えスタートした。「架空の演奏会の企画」をし「宣伝のチラシ製作」を必須とした。プログラムを製作するのはチラシ製作の目処のついた学生のみとした。

架空の演奏会はクラシックの公演を目標とし、授業の流れは今までを踏襲した。

- ①架空の演奏会の企画
- ②企画書の作成
- ③企画のプレゼンテーション
- ④チラシのデザインのラフを描く
- ⑤Adobe を使用しデザインする

企画のプレゼンテーションの後に知人のコピーライターに依頼し「キャッチコピー」の大切さを講義頂いた。学生には『気になるキャッチコピーを持ってきてください（&何が気になるのか発表してもらう）』と前週に声かけをしたところ意図を汲み取り提出・発表してくれた。

皆、興味ある内容とクラシックへの知識をうまく混ぜた企画・チラシを制作することが出来た。Adobeを使用することには何のためらいもなく皆上手に使えるようになった。成果物（完成チラシ）へは後日知人のデザイナーにも添削してもらおう機会を得て学生に返却した。

完成系が見えている学生は迷いなく進めており日々「様々なチラシや広報物を見て読み込むこと」を日課にして欲しいと思う。

今後は Adobe 以外のアプリでもデザインワークは出来る時代となり本授業でも Adobe の操作性以外にも広報宣伝物への考え方・デザインへの取り組み方をもっと伝えていかなくてはと考えている。

（松永）

いぶんきたん
異聞綺譚
~Mysterious Story~

白昼夢のような奇跡を
見逃すな！

2023年8月12日（土） 18:00開演（開場17:15）
東京芸術劇場
☆チケット☆
一般7000円 特典付11,000円 特典オールインバック16,000円

「キャラクターが画面から出てこない」
この悩みはアニメが好きなら一度は考えるのではないだろうか。
「キャラクターが画面から出てきたらいいのに」
この願いもアニメが好きなら一度は夢見るのではないだろうか。
今回、我々はそんなアニメを受る皆様の願いを実現させるべく、一つの技術を生み出した。
その技術とは舞台上をアクセスポイントとし二次元と三次元を繋ぐこと。
我々はこの技術を駆使し、音楽をテーマにしたアニメ作品から演者達を招くことに成功した。
-異聞綺譚-それは不思議な物語。
今宵、作中で演奏された曲を作中のキャラクター達が自ら影り演奏する。
舞台上で訪られる奇跡を見逃すな！

☆プログラム☆

一部	二部	三部
サン＝サーンス： 序奏とロンドカプリチオーソ	久遠 天泣	三部 リスと青い鳥
クライスラー： 愛の悲しみ（ピアノ独奏）	津軽じよんがら節 津軽小原節	プロヴァンスの風 三日月の舞
ヴェートーヴェン： ヴァイオリン・ソナタ 第9番 「クロイツェル」第一楽章		

☆出演者☆

宮園かをり 有馬公生 鳳月さどわ 澤村壺 北守治高校吹奏楽部

☆チケット特典のご案内☆ [チケットはこちら](#)

- オリジナルパンフレット
- 全6種プロマイドセット
- オリジナルデザインプレチケット

四月は君の嘘 Ver. この音とまれ！ Ver. ましるの音 Ver.
響け！ユーフォニアム Ver. の4種類からお選びいただけます
※特典オールインバックは全てのバージョンの特典がつかます。

<http://apita.jp/ibunkitan/>

2024.
6.22.
(土)

今年もまたあの夏がやってくる

繋ぐ

日時 18時開演（17時30分開場）/入場料 ¥1500 小学生以下 無料
場所 なかのZERO 大ホール
チケット オンライン予約（完全自由席）

主催：日本テレビ放送網 / ムービック・プロモートサービス / 東急エージェンシー
協賛：パルグループ / 東急リアル / 日本工学院
協力：バケモノの子 製作委員会

細田守 × 東京佼成ウインドオーケストラ

細田守 × 東京佼成ウインドオーケストラ

東京佼成ウインドオーケストラ
1969年3月、立正佼成会所属の「佼成吹奏楽団」として発足し、その1978年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。翌年吹奏楽作品賞「トーン・プロデュース賞」を宮城雄之助の指揮で録音し平成11年度文化庁賞「レコード部門」最優秀賞を受賞。CD「モレヨウアカデミー賞」を3度受賞するなど高い評価を得ている。全日本吹奏楽コンクール課題曲の演奏回数も長年変わらず、1972年から続いている大人気シリーズ「ニュー・サマーズ・イン・プラス」のほぼ全ての演奏を担当している。

ゲスト
日本のアニメーション監督、アニメーター、1時をかける少女（2006年）、『サマーウォーズ』（2009年）を監督し、国内外で注目を集める。2011年、自身のアニメーション映画制作会社「スタジオ地図」を設立。2018年の『未来のトワイ』（監督・脚本・原作）は第71回カンヌ国際映画祭・監督部門に選出され、第91回アメリカアカデミー賞の長編アニメ映画賞や第46回アニメ賞では最優秀インディペンデント・アニメーション映画賞を受賞した。

みどころ
2020年4月、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から初めての緊急事態宣言が発令されました。私たちはそれ以降イベントの自粛、学校の閉鎖、政府によるおろろる時間の推奨により、人と関わる機会、誰かを楽しませる機会、感情を表に出す場面こそコロナ禍前に比べ大幅に減りました。しかしイベント自粛の規制が解除された今、再び人と人との関わりを築く時がやってきました。長いコロナ禍を乗り越えてきたからこそ皆さんと歌いたい歌があります。今年もやってくる夏へ楽しみを感じながら聴いていただきたいです。

プログラム
バケモノの子 祝祭
おおかみこどもの雨と雪 きとこと 四足足の踊り
時をかける少女 変わらないもの
サマーウォーズ 1億5千万の奇跡
みんなの勇氣

子約
オンライン予約（完全自由席）
お問い合わせ電話番号 03-3556-6562

アクセス
中野ZEROホール
〒164-0001 東京都中野区中野2-9-7
中野駅南口から徒歩8分
紅葉山公園下後駅から徒歩3分

今年度は授業以外に4つの活動について報告

- 1) 一昨年の11月初旬および昨年の4月と6月、当初アートマネジメントコースの1年生(現在2年生)から、国家検定制度の技能検定「舞台機構調整(音響)技能士」について、資格を取るにはどのような勉強をすれば良いのかという質問を受けたため、下記のURLを教え、詳しい説明と公開されている試験の内容・期間・資料なども伝えました。

https://www.javada.or.jp/jigyuu/gino/pdf/R05_ginoukentei3kyu.pdf

- 2) 舞台音響会社への就職を希望していた4年生の就活について、希望に沿う音響会社を紹介し、提出する履歴書やレポートの添削と指導をおこなった。後日、本人から内定通知書が届いたとの報告がありました。
- 3) 今年度の劇場音響概論を受講している学生が、劇場で舞台音響のインターンシップを強く希望していたため、昨年の11月20日から12月6日までの期間、新国立劇場技術部の音響課長に受け入れて頂き、中劇場(Dance to the Future:ダンス)、オペラ劇場(こうもり:オペレッタ)、小劇場(東京ローズ:演劇)に至るまで、それぞれ違うジャンルの演目を、仕込みから通し稽古までを網羅した研修として実施して頂いた。
- 4) 12月8日ブラームスホールで上演したアートマネジメントコース企画制作公演「クラシック×宮沢賢治 ~文学と音楽の星空へ~」の仕込み~GPまでの音響指導をおこない、本番は客席で見守った。機会があれば来年も手伝いたいと思わせる印象的な企画でした。

5) 劇場音響概論の授業について

アートマネジメントコース3年の選択科目である「劇場音響概論 I・II」は、前・後期をとおして、劇場における音響の役割を多角的に考察し、舞台音響の基礎を学ぶ授業です。

前期は、舞台芸術を創造する様々な職域の劇場スタッフの仕事を知り、各スタッフとのコミュニケーションの取り方や観客との関わり、舞台技術者に必要な「音」の知識と音響プランの構成などを学びます。

後期は、聴覚の演出家とも言われる「舞台音響の仕事」を実践的に学ぶため、録音スタジオでラジオドラマを共同で制作します。履修する学生全員が主体となって、物語の選定と台本作成、演出・配役・音響プランの構成をおこないます。効果音作りや選曲、録音・編集・ミックスなどの作業をとおして、音だけで表現するラジオドラマの世界を体験し、無から有を生む舞台芸術に関わるスタッフに必要な発想力とコミュニケーション能力を磨き、アートマネジメントに携わる人材の育成を目指しています。

今期、登録した3年生は7名でした。毎年、前期最初の授業では私も含めた全員が質問コーナー付きの自己紹介をしてから授業に入ることにしています。また、授業終了の5~10分前に、A4用紙1枚に纏めた「今日の授業で思ったこと、感想や質問など」と「アンケート」を配り、ほぼ毎回提出してもらっていました。

「アンケート」の項目は次のとおり…。

- 1) 先生の言葉は聞き取れましたか？ 全部聞こえた ほぼ聞こえた 一部聞こえなかった
- 2) 授業に興味を持ってましたか？ 興味津々 大分持てた 半分持てた 少し 余り持てない
- 3) 授業の程度はどうですか？ 難しい やや難しい 丁度よい やや易しい 易しすぎる
- 4) 授業の進行はどうですか？ 速すぎる やや早い 丁度よい やや遅い 遅すぎる
- 5) 授業の内容はどうでしたか？ 期待以上 期待どおり 期待とは違ったが満足 やや不満
期待外れ その他
- 6) 意見・要望があれば…自由に

尚、最初の授業のみ、「今日の授業で思ったこと、感想など」を「音について思うこと」に変更したアンケート用紙を配り、各自が思っている『音』を書いてもらいました。

昨年度までの4年間、コロナ禍の影響でシラバスに掲載している劇場施設見学を実施することが叶いませんでしたが、ようやく新型コロナが5類に移行したことで、昨年5月末に新国立劇場の見学を実施することができました。

夏休みの課題は、ラジオドラマで使う物語の提出です。9月の後期開講5日前に11本の候補作品がLINEグループに集まりました。各自が選んだ物語をプレゼンした後、LINEの投票で「白いぼうし」(作:あまん きみこ)と「やまなし」(作:宮沢賢治)が選ばれました。次に、演出とキャストの配役、各スタッフの役割(演出助手・音楽・効果・記録・録音・編集)を決めてから、全員で物語を読み解き、プランを共有する作業に入りました。

その頃、『大学の施設紹介パンフレットをリニューアルするため、録音スタジオでの実習風景を何かカットか掲載したい。』との依頼があり、スタジオ実習授業の撮影に協力しました。

セリフの録音が一通り終了した11月の後半からは、作業の開始時間を早めるなどして、選曲とピアノ演奏の録音、効果音作りなどを実施しました。1月に入り、仕上げに必要なセリフの部分的な再録や音楽と効果音の録音、そして編集をおこない完成を目指しました。

両作品とも仕上げの編集作業では、セリフの「間」や、音楽と効果音の「InとOut」などのキッカケを全員で考え、共有していくことを念頭においた作品作りを目指しましたが…。今回残念だったことは、スタジオのモニター・ディスプレイに不具合が起き、編集やミキシング作業を中断せざるを得ない状況が頻繁に起きたことです。そのため、実習授業終了後に騙し騙し様子を見ながら編集作業を実施しなければならず、編集したものは次週の授業開始時に全員で試聴して共有するという、変則的な行程になってしまいました。

それでも、作品を仕上げる過程で確認をしながら意見を出し合い、また確認して共有して完成を目指していくという経験は、プロの感性に近づくための第一歩として、何かしらプラスの発想を生む力になると信じています。

また、スタジオ実習の最終日には、来年度からこの授業を引き継いで頂く百合山先生も終始見学さ

れ、完成した作品への質問や感想も頂き、充実した最終日になりました。

2024年度からの劇場音響概論は、今回参加できなかった松宮先生と百合山先生という、新たなパワーを秘めた二人が、二人三脚でスタートを切ることになりますので、とても楽しみにしています。何卒、お二人をよろしく願いいたします。

16年間、お世話になりました。ありがとうございます。

(渡邊)

「芸術文化政策論Ⅰ・Ⅱ」

担当教員：赤木 舞

3年次の必修科目である「芸術文化政策論Ⅰ・Ⅱ」は、文化政策に関する全般的な概要を把握し、国および地方公共団体の文化行政の構造、政策の方向性、およびその基盤を形成している文化関連の法制度等を幅広く学び、わが国の芸術文化政策に関する理解を深めることを目標としている。

前期の「芸術文化政策論Ⅰ」は、わが国の文化政策の意義、歴史、法制度（文化芸術基本法、劇場法、文化財保護法、著作権法等）、予算等について学び、文化政策に関する基礎的な知識を修得し、国や地方自治体による具体的な支援政策について学んだ。前期の最終授業は、各学生が異なる自治体の文化振興条例を2つ取りあげ、相違点について分析したものを発表した。

後期の「芸術文化政策論Ⅱ」は、文化政策の観点から公立文化施設ならびに芸術文化団体の運営、文化財の保存活用とまちづくり、芸術分野の教育普及活動、国際交流といったテーマに関して幅広く学んだ。また、欧米、アジア諸国の文化政策について概観し、比較することにより、わが国の文化政策の特徴や方向性について理解を深めた。1年間の総括として、音楽祭/芸術祭または文化財による地域のまちづくりの事例についてプレゼンテーションを行い、国の政策のみならず、地方の文化行政の実情についても学ぶ機会となった。

◆総括

基本的には座学の授業であるが、文化政策についてより身近に感じてもらうため、授業に関連する新聞記事や、インターネット上で話題となっているトピック、近年発行された調査報告書等を活用しながら授業を進めた。また、学生同士で意見交換する場を設けることで、学生の理解と関心を深めることができた。授業後に質問がある場合は、Google Classroomを活用してやり取りを行うようにした。

例年どおり、前期・後期共に、授業内で期末課題のプレゼンテーションを行う機会を設けた。調査内容を整理し発表するとともに、他学生の発表を聞くことで、いろいろな視点から芸術文化政策について考察することができた。また、自身の出身地域の事例や関心のある事例を取りあげることで、より積極的に授業に取り組む姿勢がみられた。文化政策についての知見を深めるだけでなく、特定の事例についていろいろな観点から調査し考察することは、次年度の卒業論文に向けてのスキルアップにも繋がるといえる。年々、学生の資料作成およびプレゼンテーションのスキルが向上していると感じている。

(赤木)

「コンピュータ音楽実習Ⅰ、Ⅱ」

担当教員：安田寿之

■ 概要

一般的なDigital Audio Workstationアプリケーションの一つ「Pro Tools」を使用し、アイデアを具現化し目標とする楽曲形態に到達する制作フローを習得する内容で、ソフトウェアを活用した作編曲技術の習得のみならず、個別の特性に応じた自発的な目標設定、21世紀型スキル（創造力、イノベーション、情報リテラシー、問題解決能力、協働力など）の獲得もテーマ/目標としている。

コンピュータやソフトウェアで何ができるのかを理解することは必要だとしながら、コマンドを暗記するようなことは求めていない。むしろ、音楽を通して社会的スキルを身に付けることを重視している。作編曲に創造力やイノベーションが必要なことは言うまでもなく、情報リテラシーにより独自性を追求し、問題解決能力によって課題を打破するとともに同級生と協働し助け合うことなど、音楽制作を通して問いに溢れる現代を生きる力を養えると考えている。

具体的には、制作ロードマップ（工程表）に則り、進行している。

前期のコンピュータ音楽実習Ⅰでは、デジタルオーディオやソフトウェアの解説をするとともに、全員共通で編曲を進める1曲を決定する。ある程度スタンダードとして定着していて多様なアレンジが想定できるか、難易度はどうか、などの観点で選定する。曲を決定度、各自、曲全体の構成、テンポ、拍子、スウィング感、キー、コードなどの基本要素を設定し、MIDIプログラムを進める。

後期のコンピュータ音楽実習Ⅱでは、各自1楽器をスタジオで録音する工程からスタートし、それらを編集し、前期制作したMIDIプログラムと組み合わせる。スタジオでの録音は2人ペアで行い、演奏する側と録音する側をそれぞれ担当させる。録音する側はただソフトウェアを操作するだけでなく、演奏を客観的にきき、奏者がどうすればうまく演奏できるか考え指示するコミュニケーション力を求めている。録音がプログラムしていたアレンジに影響することも多々あり、編曲のアップデートとミックスを行い完成させる。

模範の意味ではなく、毎年私自身も学生と同じ条件でアレンジを行っている。制作途中での問題や壁をどう乗り越えるかを体現し、具体的な解決策を提示するためである。例えば、直接音には関係しないと思われがちな「整理」が音楽制作においていかに大切で、引いては実際の音に影響する、というようなことを教示している。結果的に、完成曲が学生への刺激になっていれば幸いである。

【前期：コンピュータ音楽実習Ⅰ】

曲構想
曲全体の構成、テンポ、拍子、スウィング感、キー、コードなどの基本要素を構想/設定



MIDIプログラム
・リズム MIDIプログラム→audio化（コミット）
・ベース MIDIプログラム→audio化（コミット）
・その他アレンジ楽器（コード、装飾音など） MIDIプログラム→audio化（コミット）

後期レコーディングする楽器を想定し、その楽器は仮プログラムしておくか（レコーディング後、差し替え）、MIDIプログラムでは避けておく。



【後期：コンピュータ音楽実習Ⅱ】

生楽器（基本的には1楽器）録音・編集
・夏休みの間に、楽器決め、アレンジ、練習しておく。（スムーズにレコーディングするため）
・スタジオにてレコーディング
ピアノ、ヴォーカルなどなら、そのまま録音。
管楽器、弦楽器、パーカッションなどなら、持参し録音。
・編集（テイク選び、クロスフェード、ノイズ除去、スライス、クオンタイズ（タイミング修正）など）



ミックス
・エフェクト（EQ/コンプレッサー（必須）、空間系/歪み系/モジュレーション系など（任意））
・ミックスダウン（パン、オートメーション、バランス決め）
・（マスタリング）



リミックス
部分的もしくは全く違う曲に改変、リアレンジ

■ 2023 年度総括

コロナ禍も落ち着き、構内の機材を使う実習としてほぼ平時の内容を行うことができた。ただ、学生の使う端末でデータについて指導を行う際、間近で話すことやマウスを共有することは避けられず、感染対策として私はマスクを着け続け、講義の前後に手洗い、消毒、うがいを徹底した。私自身、感染を免れ、休講なく終えられた。

昨年度、一昨年度は非常に人数が多かったが、今年度はそれまでの通常程の7名の学生で、比較的じっくり時間をかけて講評することができた。課題曲として、世界的なスタンダードなどではなくTVなどで慣れ親しんできたと思われるドメスティックなアニメ曲を選び、楽しみながら編曲に取り組んでいた。音楽単独ではなく映像とのセットで捉えることは、学生のみならず一般的にも年々自然なことになってきていると感じる。普段から多様なジャンルや時代の文化に興味を持ち親しんでいる学生は、驚くような独自性を持ったアレンジを行っていた。終盤になるに従い能力や資質により差が付くが、例年通り落第させないために何とか完成までこぎ着けさせる学生への指導により、講義内での時間では優秀な学生により高度なことを教えられない。そこで、以前はなかったことだが学生作品を持ち帰り自宅でしっかりきいて講評をメールしている。

同様の講義を作曲コースでも担当しており否応なしに比較してしまうが、アートマネジメントコースの学生は概して素直でまじめで教えやすい（作曲コースの学生は、また別のよい面がある）。欠席に関して伝えている内容（欠席すると、講師は別の週に個別に説明をすることになり、欠席者は出席者に使われるはずの時間を奪う）をよく理解し、基本的なことだがしっかり出席をしている。これも、一つの協働力である。このような学生の特性は毎年受け継がれており、今コースの先生がたの指導の賜だと感じる。

(安田)

「演劇論・演出論」

担当教員：酒井 美恵

アートマネジメントコース4年生を対象とした「演劇論・演出論」は、前期だけの選択科目で、今回は同コースの三名が受講した。4年次の学生にとって、卒業後に演劇や舞台業界で活躍できるよう就職活動に役立つ演劇業界の構造やマネジメント体制の違い、そして今後演劇鑑賞をするうえで押さえておきたい主要劇作家とその代表作に関する基礎知識を学びながら、プロの舞台の良し悪しを見分ける視点を身につけることを目的とした授業構成にした。

初めに、「公共・民間劇場、興行会社、劇団、俳優マネジメント事務所など、主催公演の興行形態の違いによるマネジメント体制の相違」を解説。学生それぞれの演劇鑑賞経験を聞いたうえで、改めて主要劇場や劇団主催の公演を鑑賞し、出演者のみならず主催者のマネジメント体制やスタッフ構成やその役割に注視した観劇レポートを作成し、プレゼンテーションをしてもらった。二人は新国立劇場主催「エンジェルス・イン・アメリカ第一部」、一人は青年団主催「ソウル市民」を選んだ。

次に、演劇の多種多様なジャンルへの理解を深めるため、日本演劇の大きな流れの中での主要劇作家・演出家を中心に「日本演劇史概論」の講義をした。さらに「西洋演劇史概論」では、主要8カ国の重要劇作家・演出家・劇場名を紹介。学生が各自関心のある国を選び、事前に提示した各国演劇史におけるキーワードをもとにリサーチレポートを提出。各自のプレゼンテーションに情報を補足する形で、全員で体系的に、海外の演劇事情や発展の違いを学んでもらえるよう試みた。

後半は、「演出家や舞台監督等スタッフの仕事と役割、制作としての各セクションとの関わり方」を解説。そのうえで、前半で学んだ日本演劇や西洋演劇の中から一作読んでみたい戯曲を尋ねたところ

ろ、学生たちが自主的にシェイクスピア作「夏の夜の夢」を選んだ。まずは、作品解説や登場人物の関係性を解説し、場面ごとに戯曲を読み進めるなかで、学生にキャスティングを考えさせる。テレビドラマなどに主演する豪華俳優陣が顔を揃える夢の配役が提案され、プロデューサーの仕事の一環である配役の醍醐味を経験してもらう。

その後、戯曲の名場面を全員で声に出して朗読し、台詞に感情を乗せる所謂「演技テクニック」を説明。台詞を声に出すことや言葉に正確な感情を乗せて表現することの難しさを体験できたことと思う。

最後は、各学生の特性に合わせて、一人は皆で選んだ豪華キャストによる「夏の夜の夢」公演の帝国劇場での上演企画を発案し、公演収支から動員計画に則した公演回数や日時設定を考えるプロデューサーとして。一人は、この公演のテーマ音楽の編集を任された音楽担当として。そして一人は、友人の結婚式で演じる「夏の夜の夢」を原作にした寸劇を執筆する劇作家として、それぞれの視点と役割でこの戯曲の魅力を引き下げることを最終課題とした。

受講人数は少なかったが、演劇への関心が高い三人それぞれが、積極的に与えられた課題に取り組み、常時コミュニケーションを密に取りながら授業を進めることができた。前期だけという短い期間ではあったが、この授業を通して、今後演劇に触れる機会が増えることで、世界観や視野が広がり、人間の多様性への理解が深まることを心から願っている。

(酒井)



「舞踊概論Ⅰ・Ⅱ」

「舞踊概論Ⅰ」

担当教員：阿部 さとみ

伝統芸能が一般社会から遠い世界のものになって久しく、特に若い世代にはそれが顕著です。世間一般にも伝統芸能に様々なジャンルがあることすら知られておらず、「伝統芸能」という一つのジャンルであるとも思われている傾向にあります。そこで、この授業では、一口に伝統芸能といっても、神楽・田楽、雅楽、能、狂言、文楽、歌舞伎、日本舞踊と多岐にわたり、それぞれの特徴と多様な舞踊の形式を持っていること、共通して持っている背景にある思想などを、映像を多用しつつ学ぶ形式をとって

ます。各ジャンルそれぞれの中でも多様性があるため、できるだけ多くのものに触れて欲しいからです。また、音楽大学という点から、絶対音階ではない日本の音楽の特徴を、アートマネジメントコースということから、制作面などの裏側も少々紹介しました。

前期の15回全て対面授業ができ、少人数だったことが有効に働き、活発な意見や質問がありました。現代はなんでも「わかりやすさ」を求める傾向にあります。簡単に手が届かないところにある伝統芸能を持つ日本の面白さの紹介から、「ただ難しいのではなく、面白さはその文化を知った先にある」という気づき、伝統芸能を見る目が変わったとの反応が頼もしく思われました。また教育実習や就職活動等の忙しい時期にもかかわらず、積極的な取り組みが見られたのも嬉しいことでした。

(阿部)

「舞踊概論Ⅱ」

担当教員：稲田奈緒美

後期の「舞踊概論Ⅱ」では、ヨーロッパで誕生したバレエの歴史から始め、20世紀以降のモダンダンスや現代のコンテンポラリーダンスまで、歴史を軸として多様な舞踊とその背景にある社会について、具体的な映像を多用しながら学びます。前期の「舞踊概論Ⅰ」で阿部さとみ先生から日本の舞踊や伝統芸能などを学んでいるため、比較をしながら学ぶことができます。

今年度の履修者は2名でしたが、大変熱心に受講してくれました。4年生のみの少人数クラスであることを活かして学生は自由に質問や意見を述べることで授業の理解が深まり、自身の専門であるアートマネジメントと結びつけて考えることができたようです。授業後半は、学生が企画運営する公演の準備や卒業論文、就職活動などと重なり厳しいスケジュールでしたが、計画性をもって課題を行い、頑張ってくれたことを大変うれしく思っています。

オムニバスで担当している後期の「舞台芸術概論」では、同じ作品をオペラとバレエ、ダンスで見比べ、それぞれの表現の特徴を理解するという授業であり、学生も両者を比較しながら興味を広げました。履修者が多い講義のため、授業に向かう姿勢や集中度には差がありましたが、最後のまとめとなる学期末レポートでは多くの学生が優れた視点で書いてくれました。

二つのクラス共に、授業での学びを今後の大学での学びだけでなく、卒業後の仕事や趣味に活かしてくれることを願っています。

(稲田)

6. その他

1) F D活動

F D (Faculty Development) とは、大学教員の教育能力向上を図る活動であり、公式には「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称」*と定義されているものである。

(* 中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」答申 平成17年1月)

今年度(令和5年度)、アートマネジメント部会としては下記の活動を行った。

《実施事項1》「アートマネジメントコース授業に関する課題」として

部会所属教員へのアンケート調査の実施

目的：学生に学ぶ喜びと学修成果をあたえられる望ましい授業のあり方を探求し、各教員の授業改善を図っていくこと。

内容：アートマネジメントコース部会所属の全教員を対象に「アートマネジメントコース授業に関する

る課題」についてアンケート調査を実施した。今回の調査結果を共有し、大学が実施した「学生による授業評価アンケート」の調査結果とともに、部会において意見交換した。今年度は基本的に全科目が対面授業で実施されたため、対面における授業のあり方、課題について討議することとした。

時期：令和6年1月22日～2月29日「アートマネジメントコース授業に関する課題」アンケート実施
令和6年3月1日 アートマネジメント部会開催（小会議室2）

備考：「学生による授業評価アンケート」の検証と共に、今回の教員からのアンケート調査を実施し、双方向的に討議することによって授業における現状の把握が具体的に可能となった。また、教員個々の課題の共有や自己点検にも生かすことができた。

《実施事項2》卒業研究指導方法の検証

目的：音楽総合学科において卒業論文を課している3コースが共同で、卒業研究の進め方について学び、各コースの指導法の検証と改善に結び付けること。

内容：音楽学コース、音楽教育コース、アートマネジメントコースの3コース合同卒業研究発表会を開催した。

時期：令和6年3月24日（オープンキャンパス）

備考：音楽総合学科3コースそれぞれの卒業研究の発表を聴くことによって、研究テーマの設定や研究成果等について、相互に理解を深めることができた。合同卒業研究発表会は、予定どおり3月のオープンキャンパスにおいて第3回が開催された。

2) ご退任

渡邊邦男先生が今年度（令和5年度）末をもってキャンパスを去られることとなりました。在職中のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、ご健勝と今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（上村）

渡邊邦男先生

アートマネジメントコースの前身である音楽環境運営学科の設立の2008年度より今年度まで16年間にわたり、数々の要職でお忙しい中、講師として「劇場音響概論」をご担当いただきました。

通常の授業に加えて、学生たちが力を合わせて演奏会を企画制作し、学内のホールにおいて実際に演奏会を開催する「企画制作演習」においても学生一人一人に適切で細やかな指導を賜り無事に開催できたことは記憶に新しいところです。明るく温厚なお人柄で、いつも学生たちに親身に接してくださり、劇場音響の様々なスキルや楽しみ方をお教えくださっていたようすは、学生の生き生きとした表情からもうかがい知ることができました。音楽環境運営学科の草創期から長きにわたり、本当にありがとうございました。



渡邊邦男先生 プロフィール Profile

1951年生まれ、栃木県出身。日本大学芸術学部演劇学科卒業。

1973年からの22年間、帝国劇場にて本間明氏に師事。演劇とミュージカルの舞台音響を学ぶ。

1994年10月、師の勧めもあり開場準備中の新国立劇場運営財団技術部に転職。音響課長として2016

年の定年退職まで、オペラ・バレエも含めた幅広いジャンルの音響デザインを手掛け、後進への指導・育成も積極的におこなってきた。

2016年、一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構へ専務理事として入所後、2017年からは理事長を務めている。

武蔵野音楽大学との関わり：新国立劇場在職中の2007年頃、当大学教授の池田温先生からの熱い誘いが縁で、2008年から今年度まで劇場音響概論の講師を務めることができました。先生はアートマネジメントコースの前身である音楽環境運営学科の設立と運営に尽力され、退任された2015年春に武蔵野音楽大学名誉教授となりましたが、その年の10月1日にお亡くなりになりました。改めて池田先生のご冥福をお祈りいたします。

公益社団法人日本舞台音響家協会(SSAJ)：帝国劇場在職中から、SSAJの前身である日本演劇音響効果家協会の理事及び事務局長を歴任してきたため、2000年に発足した日本舞台音響家協会では2代目の理事長に就任(2006～2021年まで)、現在は理事として後進の育成と顕彰等を実施している。

主な作品(オペレーターとして)

「屋根の上のヴァイオリン弾き」「伊達小袖」「王様と私」「サウンド・オブ・ミュージック」「マイ・フェア・レディ」「ラ・マンチャの男」「孤愁の岸」「レ・ミゼラブル」他、
「ミス・サイゴン」(日本側の音響を担当)。

主な作品(音響デザイナーとして)

ミュージカル「イーストウイックの魔女たち」「太平洋序曲」「エリザベート(2025再演)」他。
オペラ「罪と罰」「沈黙」「青ひげ公の城」「スペース・トゥーランドット」「軍人たち」他。バレエ「J-バレエ」「ナチョ・ドゥアトの世界」「しらゆき姫」「アンナ・カレーニナ」他。
演劇「セツァンの善人」「その河をこえて、五月」「わが町」「十九歳のジェイコブ」「三文オペラ」「二都物語(2025再演)」などがある。

武蔵野音楽大学 音楽総合学科 アートマネジメントコース

年間活動報告書 2023

発行 : 武蔵野音楽大学
音楽総合学科 アートマネジメントコース

編集 : 武蔵野音楽大学
音楽総合学科 アートマネジメントコース
教員及び担当学生

刊行日 : 2024年3月31日